

# 自宅も思い出も瞬時にパー

## アテが外れた 穴戸錠の老後

半世紀の間住んでいた自宅を、思い出もろとも失ってしまった俳優の穴戸錠。3年前に妻で元女優の遊子さん、一昨年に愛犬の「サダム・フセイン子」を相次いで亡くしてからは、ひどく容らされた。79歳と、かなりのトシである。今後、どのように容らすのだろうか。

「穴戸さんの住まいは、世田谷区内にある閑静な住宅街。本人名義の約150坪の敷地に鉄骨3階建ての持ち家が立っていました。築50年が経っているとはい

全焼した自宅と穴戸錠(円内)



え、早大名誉教授で建築家の鈴木惲氏設計で周辺の建物の中では際立っていた。いかにも芸能人が好みそうなモダンな造りが印象的でしたね」(地元の不動産関係者)

何度も穴戸を乗せたことがあるという地元タクシの運転手は、「『うちの番犬は頼りになる』と、犬の話をよくしていました。その犬が死んでからは、心配した娘さんがちよくちよく様子を見に来ていたようですよ」と話す。

時代の衣装や写真も多く保管されていた。出火当日、くしくも日活時代から親交のあった録音技師をしのぶ会に出席するため外出していたというが、ショックは計り知れないだろう。

全焼した自宅には、日活「穴戸さんの世代は土地神話に傾倒した人が多く、持ち家率が高い。そこそ野暮もあり、年金の受給額も手厚く、他と比べると裕福な世代といえるでしょう。ただ、新たに家を作る選択は考えづらい。土地を売って賃貸物件に移り住んだり、ひと足早く有料老人ホームへ入居するパターンも考えられる状況です。一般に、子どもと同居するケースも多いですが、家事を手助けしてくれる母親と違って、父親の場合は揉めるという話をよく聞きます」(前出の上原氏)

いまのところ本人は元気なようだ。現場に集まった記者に「誰かが火を付けた。俺が捕まえてやる」と息巻いていたが、老後の生活設計が狂ったのは間違いない。

前出の不動産関係者は、「相場からして土地の値段は1億円はくらない」と言う。息子や娘もいる。あすから路上生活、なんてことにはならないだろうが、思わぬ選択を迫られている。